

# JOMA 通信

1986. 9. 10 No.28

海外宣教連絡協力会公報  
Japan Overseas Missions  
Association

発行者 河井清治

事務局 〒168 東京都杉並区高井戸東2-25-11-308

TEL (03) 335-3049

郵便振替東京6-106631

海外宣教連絡協力会

## 国際適応学 — アダプトロジー —

奥山 実

adaptology と言う辞引にもない言葉が登場して来た。訳して“国際適応学”と言う学問である。歴史家のトインビーが言っている様に、人間の歴史は交易要路の変革によっても大きく変化して来たのである。海に交易の通を発見した時、シルクロードは重要度を失ない、シルクロードの町々は、廃れて行った。

そして今や、ジェット機時代である。だから、四面海に囲まれて、安眠していた日本も、空から人がやって来て、確実に「国際化」の波にのまれて行っているのである。空の交通によって今や歴史が大きく変化して来たのである。

◇ ◇ ◇

かくして日本から今や多くの人々が海外へ出かけて行っているが、国家的レベルであれ、民間的レベルであれ、日本は世界中に誤解の種を播き、非難され、響感を買ひ、嫌悪されている。かってアメリカ人に使った「アグリー」(みにくい)と言う言葉を日本人に使う様になって、「アグリージャパニーズ」と言う極めて遺憾な言葉が定着するにいたっているのである。だいたい日本の様な「人間関係社会」(悪い表現では「部族社会」)は世界に影響を及ぼす様なことはまず無いのである。ところが、田舎者の部族社会が、奇跡的に世

界の経済をゆり動かしているから問題となるのである。「気狂いに刃物」みたいなものである。

文化人類学者は、「日本人よりも、韓国人や中国人の方がヨーロッパ的だ」と言う。日本は「人間関係社会」であり、韓国や中国は「原則社会」であるからである。つまり韓国の人々や、中国の人々にとっては、人間関係よりも、原則、イデオロギー、真理の方が大切なのである。だから韓国では、周知の如く、クリスチャンが爆発的に増大して、人口の25%以上がクリスチャンと言われている。キリスト教に何かすばらしい真理がある、と言うことがわかれば、人々は教会にやって来る(勿論、それ以外の要因もあるが)。中国でも共産主義と言うイデオロギーにほとんど失望した若者たちが、迫害されても殺されても、その信仰に生きるクリスチャン達に心ひかれて、クリスチャン達は何か素晴らしい真理をもっていると見て、地下教会にやって来るので、今や教えきれないクリスチャンの増大をみているのである。

ところが日本は「人間関係社会」であるので、つまり日本人にとっては、真理やイデオロギーよりも、人間関係の方が大切なので、「キリスト教は素晴らしい。真理がある」と思っても(都市部でアンケート調査をすると、半数以上は「どうせ宗教をもつならキリスト教」と答えると言われている)、だからと言ってすぐに教会へやっては来ない。何故か。「人間関係」が恐いのである。だ

から日本には、「百万人とも我行かん」などと言う主体性のあるのはあまりいない。「均質社会」とも言われて、「団体では強いが個人では弱い」のがその特徴であるからである。

◇ ◇ ◇

そこで『日本人の海外不適應』（稲村博著：NHKブックス）と言う本さえ出る仕末である。韓国や中国の人々よりも、日本人は遙かに多くの問題を海外で起すからである。ノイローゼ、発狂、自殺、……。日本人の海外「不適應」である。しかし面白い事に、この本の結論は、「日本は海外で立派に適應出来る」である。つまり「素質」はあるのだ。

## アジア宣教師訓練 センターの働きから

小川 国光

＜筆者小川国光師は、日本福音自由教会海外宣教委員会宣教師としてOMFを通してシンガポールに派遣され、現在アジア宣教師訓練センター（AMTI）の責任者として活躍中です。＞

今回、AMTI（アジア宣教師訓練センター）の働きの中で教えられたことについてお分ちできますこと心より感謝いたしております。

インドネシアで十一年間宣教したとは言え、これからが本格的な働きだと思っていた矢先、宣教団体の責任者達より宣教師訓練の急務を示されたのでした。何と言っても無からの働きであり、未知の奉仕に対する恐れから何度もお断わりしました。しかし祈りの中にみことば（使四：十三）に示され信仰をもって受け入れました。この間インドネシアの奉仕教会や日本の禱援教会の方々のご理解と励ましをいただき主よりの更に深い確信を与えられる思いでした。

この新しい宣教師訓練の働きに召されてすでに三年になろうとしています、現在何とか形が整

文化人類学のナゾと言われているものだが、日本人は海外へ出ると二つのグループに分かれる。「アグリージャパニーズ」と「誰よりも素晴らしく現地に適應する日本人」である。月とスッポン、光と暗の違いである。それらの事を学ぶのが『国際適應学』であり、実際訓練するところが「宣教師訓練センター」（MTC）である。実は企業や商社も多くの失敗の末、海外へ行く者たちの「研修所」をやりはじめた。我々は、「アグリー宣教師」ではなく、パウロの様に（Iコリント9：19-23）「立派に適應出来る宣教師」を派遣して行く責務がある。（MTC所長、JOMA役員）



### 今年度のAMTI訓練生

えられつつある訓練センターを見ます時に主の恵みの働きをはっきり覚えます。主よりの幻をみことばと聖霊の中に確認し、信仰をもって受けとめ、主のご栄光を心より願って献身し続ける時、主は決して私たちを恥かしめられません。生涯通してこの靈的原則を学び続けたいと願っております。

いざ具体的に宣教師訓練目標の設定やカリキュラムやプログラムの作成に当面するようになって教えられたことは、知的、文化的、靈的訓練と言っても、私自身が訓練を受けて本当に自分のものになっている領域以上には決して他の方々をお導びきできないということでもあります。その意味でこの働きは自分を探られるものであり、私自身も訓練生と共に主のみ前に新たな訓練をしていただく覚悟がなければとうてい参与できない働きであ

ります。いずれにしましても、私のDTC神学校時代の異文化体験、日本での開拓伝道牧会、OMF内での国際協力、インドネシアでの異文化宣教等の体験から異文化宣教の諸問題を私なりに煮詰め、特にアジアの視点に焦点を合わせて訓練プログラムの原案を作成したのです。その後インドやイギリスの宣教師訓練学校で教鞭をとりながらそこでの訓練を目撃できたことも貴重でした。興味深いことに私が献身する以前十年に渡って受けた運動クラブや自然科学の分野での訓練も今になって役立つようになってきていることです。

訓練プログラムができて、どのような訓練生をAMTIで受け入れるかが重要な問題です。原則として神学教育(あるいはそれに匹敵する学び)を終え、母国の教会奉仕をし、母教会(母教派)と共に異文化宣教に召命を受け、責任をもって宣教に従事しようとしている方々を受け入れることにしております。昨年は韓国、香港、オーストラリアより、今年は日本、韓国、香港、アメリカ、イギリスからの新宣教師達が送られてきています。来年度の訓練のためにも、すでに六、七名の方々が決定しております。御旨にかなった方々が、各国の教会、宣教団を通してAMTIに送られてくるように祈り続けなければなりません。毎年異なった異文化共同体を形成しつつなされてゆく訓練であり、宣教師になるような方々は意志の強い場合が多く、そこには毎年複雑な問題が生じてきます。しかし一人々々が御旨を確信して来られる時に、それらを乗り越えて余りある祝福をいただくことができます。

実際の訓練は異文化共同体生活、講義と宿題、シンガポール教会奉仕と個人伝道および近隣の東南アジア諸国訪問を通してなされます。英語を共通語にしておりますが、アジアの諸文化、欧米の文化が一同に会します時、多くの問題が生まれます。その中で霊的な諸問題にも必ずぶつかるのです。霊的、知的、感情的、文化的な葛藤の中で赤裸々の自分を正直に神と人の前に認め、そうして新しい神体験をしてゆくこと、又、更に相互の理解を深め、異文化宣教の幻を確かなものにしてゆくことが重要なのです。文化の相違と霊的体験の

相違が交叉する中で危険なわなも多いのです。言葉や文化の学びは霊性が高まれば自然に全うできるというものではありません。恥と悩みを通して学ぶものです。霊的な問題を自分の文化でおおい隠そうとしても解決できないことを知らねばなりません。霊的な未熟さと欠陥は主の御前に素直に出て、主の恵みによってのみ解決されねばならないものです。更に宣教学の知識が有益な知恵となる迄には、長期に亘る異文化生活と、奉仕体験が必要であることを十分理解しなければなりません。宣教師訓練生といっても、アジア諸国や欧米等、非常に背景の異った方々ですので、私自身、骨身の削られる思いで訓練に当たっております。もっとも、そこから与えられる祝福は大きいですが。

AMTIの今後の課題は、訓練生を十名前後から二十名以上に増やすことですが、それにふさわしい宿舍と設備が与えられねばなりません。更に、長期に亘って宣教地と宣教団内、又母国の教会との協力において主の御旨にかなった異文化宣教を進めて来られている訓練同労者がアジアや欧米から与えられるよう願っています。日本からもこれからの世界宣教に貴い貢献のできる人材が次々と発掘され、AMTIにも送られてくるように祈っています。日本の教会の皆様を支えられて私達も全力をあげてこの働きに励んでゆきたいと思えます。

## 一 第16回 JOMA 総会報告(大略) 一

日時 1986年4月21日(月) 午後1時～3時

場所 お茶の水学生キリスト教会館会議室

1. 開会礼拝 メッセージ 河井清治会長
2. 議長(新谷正明師)、副議長(深沢健一師)、書記(岩崎喜太男兄)を選出。出席11団体、オブザーバー2団体。
3. 各団体より活動報告。
4. JOMA活動報告(役員会、通信、セミナー等)。
5. 決算案承認。
6. 新年度活動案、予算案を修正して承認。
7. 事務局長代行に聖書同盟稲垣博史師を承認。
8. 役員改選。聖書同盟、PBAの任期満了に伴い南米宣教会(岩崎喜太男兄)、アンテオケ宣教会(奥山実師)が選出された。

## — 1986年度 JOMA

### セミナーのご案内

今年度のセミナーは、下記のように素晴らしい自然に恵まれた那須高原にて、開かれます。海外宣教に関心のある方々のご参加をお待ちしております。詳しい案内申込書が事務局に用意されていますので、ご希望の方はご連絡ください。

- テーマ ・「世界宣教と日本の教会」
- 日時 ・1986年10月20日(月)午後1時30分より  
21日(火)昼まで。
- 会場 ・那須ハウス・オブ・レスト 及び  
MTC (宣教師訓練センター)
- 費用 ・受講料は無料、一泊二食 5,000円  
席上献金あり、部分参加も可
- 講師 ・ディビッド・趙博士 (アジア宣教協  
議会総主事, East West Center  
所長)
- ・奥山実師 (MTC所長, アンテオケ  
宣教会総主事)
  - ・帰国中の宣教師の宣教報告も予定さ  
れています。

なお、21日(夕)7:00より、宇都宮市内栃木県青年会館において、宣教の夕が開かれます。講師は羽鳥明師、帰国中宣教師の証もあります。お近くの方は是非ご参加ください。

### — JOMA 加盟団体及び宣教師の動向 —

アジア福音宣教会 白井澄子師帰国巡回中。

アンテオケ宣教会 事務所を移転した。

〒325 黒磯市宮町2-18 ☎02876-3-5668

安海師は12月末帰任予定。田中久美子師巡回報告中。安東栄子師9月15日インドネシアへ医療宣教のため出発。熊井師は5月にアラスカ帰任。

ウィクリフ聖書翻訳協会 大鏑秀樹・正枝師8月29日ニューギニアへ出発。山見りつ子師8月中旬に帰任。橋本一夫師夫人健康チェックのため一家で8月末帰国。半沢明美師3年間の奉仕を終

えて帰国。

海外宣教交友会 (OMF) 名称を「国際福音宣教会」に改めた。入月英明師は長兄、母上死去のため、今後の導きを待っている。

PAB電波宣教を支える会 尾崎一夫師は来年6月まで宣教師としての立場で活動中。現在は南米に滞在中。

南米宣教会 中田智之師一家は、今秋帰任予定。

その他の加盟団体の宣教師は特に変更なく、元気に奉仕しておられるとのこと。続けて祈りに覚えましょう。

## 1985年度決算報告

		予算額	決算額
収入の部	会費	462,000	462,000
	献金	20,000	122,213
	雑収入	300,000	210,888
	前年度繰越金	119,035	119,035
	計	901,035	914,136
支出の部	セミナー費	50,000	286,550
	文書費	200,000	74,500
	役員会費	70,000	106,558
	事務所費	300,000	300,000
	事務費	170,000	76,949
	総会費	20,000	17,760
	予備費	91,035	0
小計	901,035	862,317	
次年度繰越	0	51,819	
計	901,035	914,136	

## 会計報告

		86年度予算	4~8月実績
収入の部	会費	462,000	399,000
	セミナー特別献金	330,000	0
	献金	120,000	21,000
	雑収入	100,000	49,010
	前年度繰越	51,819	51,819
計	1,063,819	520,829	
支出の部	セミナー費	330,000	0
	文書費	100,000	0
	役員会費	120,000	82,120
	事務所費	300,000	75,000
	事務費	100,000	17,310
	総会費	20,000	13,300
	予備費	93,819	20,000
小計	1,063,819	207,730	
次月繰越	0	313,099	
計	1,063,819	520,829	